

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870500810
法人名	はびねず福祉会
事業所名	グループホームおてだま
所在地	愛媛県新居浜市若水町1丁目9-13
自己評価作成日	平成 25 年 8 月 30 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 9 月 27 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者の趣味活動(タペストリー、ぬいぐるみ作成、園芸、俳句、習字など)に積極的に取り組めるような環境を提供している。ほとんどの生活役割に利用者が主体となって取り組めている。散歩、買い物などの外出支援もほとんど毎日行っている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>複合施設の4階フロアが、3ユニットを有する事業所となっている。ユニット玄関や室内は、日本家屋をモチーフにした造りで、落ち着いた和の雰囲気を感じる。それぞれのユニット玄関から出たところにある共有スペースは、利用者が歌を歌ったりおしゃべりしたりするなど、交流を深める憩いの場となっている。職員は、利用者の力を存分に生かすことに努めており、役割を持って生活を送れるよう支援し、排泄支援にも取り組んでいる。また、生活の支援だけでなく、利用者一人ひとりの個性を大切にして趣味や精神的豊かさを支援できるよう努めている。職員は内部研修や外部研修に積極的に参加し、サービスの質の向上に努めている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホームおてだま
(ユニット名)	紙ふうせん
記入者(管理者)	
氏名	田坂愛子
評価完了日	25年8月30日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「地域の中に」を理念に掲げ、ことあるごとに（カンファレンス、GH内研修など）理念を意識した話し合いを行っている。ケアプランにも反映し実現に向けて努力している。	
			(外部評価) 事業所独自の理念は、職員全員で話し合い作成しており、職員間や利用者には浸透している。介護計画の作成時や新しく利用者が入居する時には、理念を振り返り、理念に沿った支援ができるように職員間の意識統一を図っている。職員は、利用者の身体状況や思いの把握に努め、生きがいや役割、外出の支援に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 事業所がビルの4階にあるため、外部から入りにくいということがあるが、毎日近隣の店に買い物に行ったり、美容室を利用したり、地域の盆踊り、商店街のイベントなどに参加している。	
			(外部評価) 事業所から歩いていける距離に商店街があり、カラオケ大会や路上ライブなどの商店街のイベントや産直市に出かけて、利用者は地域住民と交流をしている。新たに通いだしたスーパーでは、店員と顔なじみとなり、困ったことがあれば協力を得られるようになるなど、利用者と一緒に地域に出向いて行き、積極的に交流するよう努めている。自治会長の計らいで秋祭りには毎年太鼓台が来てくれ、利用者の楽しみになっている。また、高校生の職場体験実習や三味線、朗読のボランティアなどの受け入れをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 認知症について自治会で話をしたり、認知症についての講演会に参加を呼びかけたりしている。新居浜市認知症を考える会にも参加している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 会議の都度意見交換、話し合いを行ない、サービス向上に生かしている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、自治会長、見守り推進委員、市担当者、複合施設の施設長、職員等の参加を得て開催している。地域の参加者から地域のイベント情報を詳しく教えてもらい、外出支援に活かしている。会議では食品衛生や感染症、認知症などの勉強会を一緒に開催する工夫をして、家族や地域住民へ情報を発信している。会議のメンバーが交代した時には、事業所内を案内して利用者の生活の様子や雰囲気を見てもらっている。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 疑問点、問題点などがあれば、市の担当者と話し合い対応を協議している。</p> <p>(外部評価) 市職員が運営推進会議に参加しており、事業所の取組みを知ってもらったり情報提供を受けたりしている。市地域密着型サービス部会の会議にも市担当者が参加することがあり、さまざまな場面で協力関係を築けるように努めている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 玄関、ベランダへのドアは開放している。外出の要求には応え、外出を頻回に行っている。身体拘束の学習会に参加し意識を高めている。</p> <p>(外部評価) 身体拘束の勉強会を行ったり、ケアの方法を見直し記録して職員間で話し合ったりして、再認識できるように努めている。昼間はベランダに通じる窓を開放し、居室や食堂から自由に出入りすることができる。複合施設の4階フロアが事業所となっており、エレベーターにはロックを掛けているが、外出したい利用者には希望に応じるよう努め、利用者にはユニット毎の玄関から外に出た共有スペースを自由に使用してもらったりして対応している。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修会に参加したり、学習会をするなどして、虐待の防止に努めている。スピーチロックについて特に気を付けてことあるごとにカンファレンスを重ねている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 学習する機会は設けたが具体的な事例はない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には十分な説明を行ない、退去時にも同様にし、関係者の理解を図っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者の言葉、態度などから意見や要望を考察し、家族にも自由に意見を求めている。それをカンファレンスなどに反映させている。	
			(外部評価) 家族からの相談や要望は、十分に聞くことができるように職員から積極的に声かけをしている。家族への大事な連絡は管理者から行うよう一本化して対応している。家族に介護計画を送付する時に手紙を添えており、利用者の良い面も不安定な面も報告して現状をよく知っていただけるように努めている。また、出された意見は話し合いを行い反映できるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 折に触れ意見提言を聞いている。リーダー会やカンファレンスなど機会を設けている	
			(外部評価) 毎年、職員は自己評価を実施し、ケアの在り方や運営について考える機会を設けている。職員は、些細なことでも管理者に相談することができ、意見が言いやすい雰囲気づくりをしている。管理者は、複合施設の施設長に相談し、法人に対しては施設長を通して意見を伝えることができる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 努めているように思われる。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 定期的に外部の研修や内部研修を受けている。資格試験にも積極的に挑戦している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 相互評価への参加や地区のグループホーム研修会に参加している。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前面接時には少しでも本人の不安を取り除くようにし、本人の状態把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前面接時や面会時に、家族の心配事、希望などを十分に時間をかけて聞いている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族と話し合い状況を見極めてサービス利用の紹介、対応をしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 「ともに生活をする人」として、毎日の会話や生活の中で得意な事を教えてもらったり、ともに楽しみ、支えあう関係づくりをこころがけている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族が疎遠な場合、できるだけかわりをお願いしたり、本人の情報を頻回に伝えたり、ともに支援していくようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの美容室や商店を利用したり、家族や友人の訪問が出来やすいように配慮している。 (外部評価) 利用者のこれまでの馴染みの関係が把握できた場合には、記録に残すようにして職員全員で共有している。利用者の希望に応じて、お墓参りや自宅へ出かけたり季節ごとに外泊をしたりするなど、家族の協力を得て馴染みの関係を継続できる支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係に常に注意を払い、「共に暮らす」暮らしを意識しながら支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所して以降も家族も相談にのったり、移転先の他事業所に面会に行ったりしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人にとってどうなのか？ということを中心に考えながら、会話の中、表情などから、推し量るようにしている。	
			(外部評価) 職員は日常生活の会話から利用者の思いや意向を把握するように努めている。把握が困難な利用者には表情などから汲み取るように努めている。利用者からは外出に対する要望が多く、希望に沿えるよう努めている。事業所では介護相談員を受け入れており、職員が気づかなかった利用者の思いを知ることができ、サービス向上に活かしている。誰かの役に立ちたいと願う利用者の気持ちを大切にし、役割を持って生活できるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族からの聞き取り等から把握している。生活アセスメントシートに記入していただいている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 生活記録表や日々の様子から、ひとりひとりの現状把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 家族や本人の意見を聞き、ケース会で話し合いながら、ケアプランを作成している。新たな変化があればカンファレンスなどで検討し現状に即したケアプランを作成している。</p> <p>(外部評価) カンファレンスは職員が中心となることが多いが、家族が参加する場合もある。利用者毎に担当職員がいて、担当職員が利用者や家族の要望やユニットでの話し合いをもとにして介護計画の原案を作成し、介護支援専門員と相談して介護計画を作成している。介護計画の内容は職員間で共有し、実施記録は介護計画に沿って記録するように取り組んでいる。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 個別のケース記録は介護計画をもとに記録し、「気づき」に重点をおいている。ケアカンファなどで検討し、実践できるようにしている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 本人、家族の希望により、受診介助や買い物、お墓参り、観劇、外食など柔軟に対応している。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 図書館や美術館を利用したり、近所の公園へ散歩に行ったり、カラオケや外食に行き楽しんでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 利用者各自に主治医がおり、受診の時は職員が同行し ている。	
			(外部評価) 利用者が希望するかかりつけ医を、家族の協力を得て 定期的を受診できるよう支援している。専門医の受診 は職員も同行して状況報告を受け、利用者の状態の把 握に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 毎日の健康状態を把握し、異常があれば看護師に相談 している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院した場合は、頻回に面会に行き、常に医療関係者 や家族と早期退院にむけて調整している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 2名であるが「看取り」に取り組んだ。利用当初から重 度化についてはグループホームの方針を理解してい ただくように話し合いは重ねている。	現在、連携医療機関では夜間対応をしなくなっており、終末期の支援は支援体制を整えることができた場合に取り組める状況である。管理者は、医師の往診と訪問看護の導入の必要性を考えており、終末期に対応できる医療連携の仕組みや体制づくりの準備をすることが望まれる。
			(外部評価) 事業所として重度化や看取りに対する指針を作成して いる。管理者は利用者の状態の変化に応じて話し合い を重ねていくことが大切だと考え、利用者や家族に相 談しながら事業所としてできることを支援していくこ とを伝えている。事業所では看取りの経験があり、医 師の往診と訪問看護、事業所の看護師、家族等の協 力、連携によって看取りを行うことができた。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救命救急の講習や緊急時の対応を訓練している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に消防署の協力で年2回避難訓練を行っている。	
			(外部評価) 複合施設合同で、年2回消防署の立会いのもと、避難訓練を実施している。事業所は複合施設の4階にあるため、利用者の避難はベランダの避難待機場所に出て、救助を待つことにしている。災害対策用の備蓄品は、業者による点検を定期的に行っている。地域住民から、大規模災害時に複合施設を地域の避難場所にさせてほしいという要望があり、備蓄品も揃えて地域に貢献できるよう取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 職員会やケース会などで常に「言葉使い」に関しては、注意喚起している。プライバシーに関してもことあるごとに検討している。職員自らの人権意識を常に意識してもらえるように努めている。	
			(外部評価) 職員一人ひとりの支援が独断にならないように気をつけており、利用者の生活することへの思いやうまくできないことが増える不安や焦りなどを理解することに努めて支援している。毎月勉強会を重ねて、職員はレポート提出をするなど、認知症ケアへの理解を深めて実践している。職員は外部研修にも勤務として参加できる体制が整えられている。	利用者の人権意識への重要性を深く捉えている職員もおり、事業所で利用者への言葉づかいや人権尊重を常に省みるよう取り組んでいることが伺える。職員全員が、言葉づかいや利用者に対する尊厳と人権意識を高められるよう、今後の職員教育の取組みに期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 個人の趣味や好みなどを聞きながら、利用者の決定を尊重していくように心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 大まかな一日の流れはあるが、一人ひとりの状況に合わせて柔軟に対応している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 朝の更衣時に好みの服を整えたり、外出時はおしゃれを楽しむよう支援している。行きつけの美容院などを利用している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の好みのものを献立にいかし、買い物、調理、盛り付け、片付けなど利用者と一緒に行っている。同じ食卓に向かい合いながら、楽しく食事できる雰囲気を作っている。	
			(外部評価) 朝食と夕食は複合施設の厨房で調理したものを盛り付けて利用者に提供している。昼食は各ユニットで献立を考え、買い物や調理、食事を利用者と一緒に行っており、野菜の下ごしらえや盛り付けを職員と一緒に手伝う利用者の姿が見られた。ユニット毎にオルゴール音楽をかけたたりテレビを消したりして、利用者の状態に合わせた雰囲気づくりをして食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事の摂取量、水分摂取量などの記録をとりながら、体調を観察して、食形を変えたり、低カロリーの食材を提供したり一人ひとりに応じた支援をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアを支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄記録表を記入しパターンを把握し、適切な誘導を行っている。排泄の失敗があると原因を探りできるだけ自立できるよう支援している。	
			(外部評価) 排泄チェック表や自室トイレに置いてあるカレンダーを用いて、排泄状況を把握している。利用者が布パンツにパットで過ごすことができるように入居時から取り組み、できる限りオムツを使用しない排泄支援に努めている。利用者の身体状況に合わせて、夜間は、紙パンツやポータブルトイレを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排泄記録表を作成し、状態を把握しながら食事の内容を検討し、水分補給にも気をつけながら、身体を動かすような支援をしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) なるべく一人ひとりの希望に沿うように入浴支援をしている。毎日入浴希望がある利用者には毎日入浴支援をしている。	
			(外部評価) 利用者は2日に1回、午後から入浴することができる。利用者の希望に応じて、毎日入浴できる工夫をしている。また、浴槽の縁が大きく利用者は腰かけることができ、浴槽には手すりを取り付け、浴槽へのまたぎがしやすく、利用者が安全にゆったりと入浴できるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) なるべく日中の活動性をあげるようにし、穏やかな就寝にむけて支援している。表情や態度を見ながら休息を促がしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬ファイルをケースごとに整理して職員が分かりやすいようにしている。新たな薬の服薬時には、特に状態変化に気をつけている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者の趣味や経験などを生かしてもらえるような行事、役割、趣味活動などを作り支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) できるだけ外出要求に応えながら、希望する場所によっては家族の支援を呼びかけたりしているが、十分とはいえないかもしれない。	
			(外部評価) 毎日散歩や買い物に出かけ、調査当日も食材の買い物に出かける利用者の姿を伺うことができた。お花見や花火大会には家族も誘って出かけている。利用者全員が出かけることができるように工夫している。利用者の外出要望が多く、美術館や図書館、併設幼稚園などに出かけたり、屋上で外気に触れ気分転換したりしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者の希望、力量に応じてお金を所持し使っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望に沿って支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) リビング、廊下、和室など季節を取り入れしつらえを工夫している。利用者と一緒に花をかざったり、壁飾りをかけたりしている。</p> <p>(外部評価) 月2回生け花を利用者で行っており、生け花はリビングや和室、玄関などの共用空間に飾られ、季節の美しさを感じることができる。ユニット玄関から出た3ユニット共有のスペースには、卓球台やソファが置かれ、歌声や楽しむ音に誘われて各ユニットから利用者が集まる憩いの場となっている。広いベランダでは、プランター菜園や鉢植えがあり、小鳥や金魚も飼育しており、居心地の良い空間となっている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 和室や中庭を利用している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 馴染みの家具や、家族の写真などを置いている。</p> <p>(外部評価) 居室はベッド、整理たんす、洗面台が備え付けられており、トイレのある居室もある。窓には障子の建具を重ねており、落ち着いた雰囲気と日よけの機能を併せ持っている。ベッドは家具調であるが、身体状況に合わせて安全や利用者の機能が使えるように考えて、手すりを付けているところもある。利用者や家族の好みを大事にして、色や持ち物を揃えている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 何が障害となっているかを見極めて、出来る力を維持するような環境を整えている。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870500810
法人名	はびねず福祉会
事業所名	グループホームおてだま
所在地	愛媛県新居浜市若水町1丁目9-13
自己評価作成日	平成 25 年 8 月 30 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 9 月 27 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>商店街の中にあるので、地域のお店を利用できやすく、ほとんど毎日出かけている。ビルの4階にあるが、ベランダで野菜、花などを育て楽しんでいる。認知症重度になっても利用者一人ひとりにできる生活役割を見つけ、積極的に取り組んでいる。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>複合施設の4階フロアが、3ユニットを有する事業所となっている。ユニット玄関や室内は、日本家屋をモチーフにした造りで、落ち着いた和の雰囲気を感じる。それぞれのユニット玄関から出たところにある共有スペースは、利用者が歌を歌ったりおしゃべりしたりするなど、交流を深める憩いの場となっている。職員は、利用者の力を存分に生かすことに努めており、役割を持って生活を送れるよう支援し、排泄支援にも取り組んでいる。また、生活の支援だけでなく、利用者一人ひとりの個性を大切に趣味や精神的豊かさを支援できるよう努めている。職員は内部研修や外部研修に積極的に参加し、サービスの質の向上に努めている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームおてだま

(ユニット名) 風ぐるま

記入者(管理者)
氏名 田坂愛子

評価完了日 25年8月30日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「地域の中に」を理念に掲げ、ことあるごとに（カンファレンス、GH内研修など）理念を意識した話し合いを行っている。ケアプランに反映させて実践へとつなげている。	
			(外部評価) 事業所独自の理念は、職員全員で話し合い作成しており、職員間や利用者には浸透している。介護計画の作成時や新しく利用者が入居する時には、理念を振り返り、理念に沿った支援ができるように職員間の意識統一を図っている。職員は、利用者の身体状況や思いの把握に努め、生きがいや役割、外出の支援に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 事業所がビルの4階にあるため、外部から入りにくいということがあるが、毎日近隣の店に買い物に行ったり、美容室を利用したり、地域の盆踊り、商店街のイベントなどに参加している。	
			(外部評価) 事業所から歩いていける距離に商店街があり、カラオケ大会や路上ライブなどの商店街のイベントや産直市に出かけて、利用者は地域住民と交流をしている。新たに通いだしたスーパーでは、店員と顔なじみとなり、困ったことがあれば協力を得られるようになるなど、利用者と一緒に地域に向かい行き、積極的に交流するよう努めている。自治会長の計らいで秋祭りには毎年太鼓台が来てくれ、利用者の楽しみになっている。また、高校生の職場体験実習や三味線、朗読のボランティアなどの受け入れをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 認知症について自治会で話をしたり、講演会に参加を呼び掛けている。新居浜市認知症を考える会にも参加している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 会議の都度意見交換、話し合いを行ない、サービ ス向上に生かしている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、自治会長、見守り推 進委員、市担当者、複合施設の施設長、職員等の参加 を得て開催している。地域の参加者から地域のイベ ント情報を詳しく教えてもらい、外出支援に活かし ている。会議では食品衛生や感染症、認知症などの勉強 会と一緒に開催する工夫をして、家族や地域住民へ情 報を発信している。会議のメンバーが交代した時には 、事業所内を案内して利用者の生活の様子や雰囲気を見 てもらっている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 疑問点、問題点などがあれば、市の担当者 と話し合い対応を協議している。</p> <p>(外部評価) 市職員が運営推進会議に参加しており、事 業所の取組みを知ってもらったり情報提供 を受けたりしている。市地域密着型サー ビス部会の会議にも市担当者が参加する ことがあり、さまざまな場面で協力関係 を築けるように努めている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準にお ける禁止の対象となる具体的な行為」を 正しく理解しており、玄関の施錠を含め て身体拘束をしないケアに取り組んでい る</p>	<p>(自己評価) 玄関、ベランダ側の出入り口は開放して いる。できるだけ利用者の外出を頻回に するよう心がけている。</p> <p>(外部評価) 身体拘束の勉強会を行ったり、ケアの方 法を見直し記録して職員間で話し合っ たりして、再認識できるように努めてい る。昼間はベランダに通じる窓を開放し 、居室や食堂から自由に入出することが できる。複合施設の4階フロアが事業所 となっており、エレベーターにはロック を掛けているが、外出したい利用者 には希望に応じるよう努め、利用者 にはユニット毎の玄関から外に出た共 有スペースを自由に使用してもらっ たりして対応している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修会に参加したり、学習会をするなどして、虐待の防止に努めている。特にスピーチロックにおいて意識を高く持つようようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 該当する利用者がいたが、まだ十分に活用できていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には十分な説明を行ない、退去時にも同様にし、関係者の理解を図っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者の言葉、態度などから意見や要望を考察し、家族にも自由に意見を求めている。それをカンファレンスなどに反映させている。	
			(外部評価) 家族からの相談や要望は、十分に聞くことができるように職員から積極的に声かけをしている。家族への大事な連絡は管理者から行うよう一本化して対応している。家族に介護計画を送付する時に手紙を添えており、利用者の良い面も不安定な面も報告して現状をよく知っていただけるように努めている。また、出された意見は話し合いを行い反映できるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 折に触れ意見提言を聞いている。リーダー会やカンファレンスなどで意見を出している。	
			(外部評価) 毎年、職員は自己評価を実施し、ケアの在り方や運営について考える機会を設けている。職員は、些細なことでも管理者に相談することができ、意見が言いやすい雰囲気づくりをしている。管理者は、複合施設の施設長に相談し、法人に対しては施設長を通して意見を伝えることができる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 努めているように思われる。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 定期的に外部の研修や内部研修を受けている。資格試験にむけても積極的に取り組んでいる。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 相互評価への参加や地区のグループホーム研修会に参加している。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前面接時には少しでも本人の不安を取り除くようにし、本人の状態把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前面接時や面会時に、家族の心配事、希望などを十分に時間をかけて聞いている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族と話し合い状況を見極めてサービス利用の紹介、対応をしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 「ともに生活をする人」として、得意な事を教えてもらったり、ともに楽しみ、支えあう関係づくりをこころがけている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族が疎遠な場合、できるだけかわりをお願いしたり、本人の情報を賓回に伝えたり、ともに支援していくようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの美容室や商店を利用したり、友人に面会に来てもらったり、出来るように支援している。 (外部評価) 利用者のこれまでの馴染みの関係が把握できた場合には、記録に残すようにして職員全員で共有している。利用者の希望に応じて、お墓参りや自宅へ出かけたり季節ごとに外泊をしたりするなど、家族の協力を得て馴染みの関係を継続できる支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係に常に注意を払い、「共に暮らす」暮らしを意識しながら支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所して以降も家族も相談にのったり、移転先の他事業所に面会に行ったりしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人にとってどうなのか？ということを中心に考えながら、会話の中、表情などから、推し量るようにしている。生活活動の中で良く観察していき検討している。	
			(外部評価) 職員は日常生活の会話から利用者の思いや意向を把握するように努めている。把握が困難な利用者には表情などから汲み取るように努めている。利用者からは外出に対する要望が多く、希望に沿えるよう努めている。事業所では介護相談員を受け入れており、職員が気づかなかった利用者の思いを知ることができ、サービス向上に活かしている。誰かの役に立ちたいと願う利用者の気持ちを大切に、役割を持って生活できるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族からの聞き取り等から把握している。生活アセスメントシートに記入していただいている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 生活記録表や日々の様子から、ひとりひとりの現状把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 家族や本人の意見や専門医のアドバイスなどを聞き、ケース会で話し合いながら、ケアプランを作成している。	
			(外部評価) カンファレンスは職員が中心となることが多いが、家族が参加する場合もある。利用者毎に担当職員がいて、担当職員が利用者や家族の要望やユニットでの話し合いをもとにして介護計画の原案を作成し、介護支援専門員と相談して介護計画を作成している。介護計画の内容は職員間で共有し、実施記録は介護計画に沿って記録するように取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別のケース記録は介護計画をもとに記録し、「気づき」に重点をおいている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人、家族の希望により、受診介助や買い物、お墓参りなど柔軟に対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の商店街のイベントなどに参加している。毎日近所のお店を利用している。地域の神社にお参りに行ったり散歩に出かける	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 利用者各自に主治医がおり、受診の時は職員が同行し ている。	
			(外部評価) 利用者が希望するかかりつけ医を、家族の協力を得て 定期的を受診できるよう支援している。専門医の受診 は職員も同行して状況報告を受け、利用者の状態の把 握に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 毎日の健康状態を把握し、異常があれば看護師に相談 している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院した場合は、頻回に面会に行き、常に医療関係者 や家族と早期退院にむけて調整している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 今までは対象となる利用者はいなかったが、ニーズが あれば対応できる。入所当初から重度化についてはグ ループホームの方針を理解してもらえよう話し合っ ている。	現在、連携医療機関では夜間対応をしなくなってお り、終末期の支援は支援体制を整えることができた場 合に取り組める状況である。管理者は、医師の往診と 訪問看護の導入の必要性を考えており、終末期に対 応できる医療連携の仕組みや体制づくりの準備をする ことが望まれる。
			(外部評価) 事業所として重度化や看取りに対する指針を作成して いる。管理者は利用者の状態の変化に応じて話し合い を重ねていくことが大切だと考え、利用者や家族に相 談しながら事業所としてできることを支援していくこ とを伝えている。事業所では看取りの経験があり、医 師の往診と訪問看護、事業所の看護師、家族等の協 力、連携によって看取りを行うことができた。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救命救急の講習や緊急時の対応を訓練している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に消防署の協力で年2回避難訓練を行っている。	
			(外部評価) 複合施設合同で、年2回消防署の立会いのもと、避難訓練を実施している。事業所は複合施設の4階にあるため、利用者の避難はベランダの避難待機場所に出て、救助を待つことにしている。災害対策用の備蓄品は、業者による点検を定期的に行っている。地域住民から、大規模災害時に複合施設を地域の避難場所にさせてほしいという要望があり、備蓄品も揃えて地域に貢献できるよう取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 職員会やケース会などで常に「言葉使い」に関しては、注意喚起している。プライバシーに関してもことあるごとに検討している。	
			(外部評価) 職員一人ひとりの支援が独断にならないように気をつけており、利用者の生活することへの思いやうまくできないことが増える不安や焦りなどを理解することに努めて支援している。毎月勉強会を重ねて、職員はレポート提出をするなど、認知症ケアへの理解を深めて実践している。職員は外部研修にも勤務として参加できる体制が整えられている。	利用者の人権意識への重要性を深く捉えている職員もおり、事業所で利用者への言葉づかいや人権尊重を常に省みるよう取り組んでいることが伺える。職員全員が、言葉づかいや利用者に対する尊厳と人権意識を高められるよう、今後の職員教育の取組みに期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 個人の趣味や好みなどを聞きながら、利用者の決定を尊重していくように心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 大まかな一日の流れはあるが、一人ひとりの状況に合わせて柔軟に対応している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 朝の更衣時に好みの服を整えたり、外出時はおしゃれを楽しむよう支援している。行きつけの美容院などを利用している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の好みのものを献立にいかし、買い物、調理、盛り付け、片付けなど利用者と一緒に行っている。同じ食卓に向かい合いながら、楽しく食事できる雰囲気を作っている。	
			(外部評価) 朝食と夕食は複合施設の厨房で調理したものを盛り付けて利用者に提供している。昼食は各ユニットで献立を考え、買い物や調理、食事を利用者と一緒に行っており、野菜の下ごしらえや盛り付けを職員と一緒に手伝う利用者の姿が見られた。ユニット毎にオルゴール音楽をかけたりテレビを消したりして、利用者の状態に合わせた雰囲気づくりをして食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事の摂取量、水分摂取量などの記録をとりながら、体調を観察して、一人ひとりに応じた支援をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアを支援している。義歯の洗浄も定期的に行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄記録表を記入しパターンを把握し、適切な誘導を行っている。	
			(外部評価) 排泄チェック表や自室トイレに置いてあるカレンダーを用いて、排泄状況を把握している。利用者が布パンツにパットで過ごすことができるように入居時から取組み、できる限りオムツを使用しない排泄支援に努めている。利用者の身体状況に合わせて、夜間は、紙パンツやポータブルトイレを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排泄記録表を作成し、状態を把握しながら食事の内容を検討し、水分補給にも気をつけながら、身体を動かすような支援をしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) なるべく一人ひとりの希望に沿うように入浴支援をしている。入浴希望のある時は毎日入浴している。	
			(外部評価) 利用者は2日に1回、午後から入浴することができる。利用者の希望に応じて、毎日入浴できる工夫をしている。また、浴槽の縁が大きく利用者は腰かけることができ、浴槽には手すりを取り付け、浴槽へのまたぎがしやすく、利用者が安全にゆったりと入浴できるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) なるべく日中の活動性をあげるようにし、穏やかな就寝にむけて支援している。表情や態度を見ながら休息を促がしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬ファイルをケースごとに整理して職員が分かりやすいようにしている。新たな薬の服薬時には、特に状態変化に気をつけている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者の趣味や経験などを生かしてもらえるような行事、役割などを作り支援している。(園芸、コース、手芸等)	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) できるだけ外出要求に応えながら、希望する場所によっては家族の支援を呼びかけたりしているが、十分とはいえないかもしれない。	
			(外部評価) 毎日散歩や買い物に出かけ、調査当日も食材の買い物に出かける利用者の姿を伺うことができた。お花見や花火大会には家族も誘って出かけている。利用者全員が出かけることができるように工夫している。利用者の外出要望が多く、美術館や図書館、併設幼稚園などに出かけたり、屋上で外気に触れ気分転換したりしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者の希望、力量に応じてお金を所持し使っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望に沿って支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) リビング、廊下、和室など季節を取り入れしつらえを工夫している。利用者と一緒に花を飾ったり、片付けたりしている。	
			(外部評価) 月2回生け花を利用者で行っており、生け花はリビングや和室、玄関などの共用空間に飾られ、季節の美しさを感じることができる。ユニット玄関から出た3ユニット共有のスペースには、卓球台やソファが置かれ、歌声や楽しむ音に誘われて各ユニットから利用者が集まる憩いの場となっている。広いベランダでは、プランター菜園や鉢植えがあり、小鳥や金魚も飼育しており、居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 和室を利用したり、ソファを使用したりしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 馴染みの家具や、家族の写真などを置いている。	
			(外部評価) 居室はベッド、整理たんす、洗面台が備え付けられており、トイレのある居室もある。窓には障子の建具を重ねており、落ち着いた雰囲気と日よけの機能を併せ持っている。ベッドは家具調であるが、身体状況に合わせて安全や利用者の機能が使えるように考えて、手すりを付けているところもある。利用者や家族の好みを大事にして、色や持ち物を揃えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 何が障害となっているかを見極めて、出来る力を維持するような環境を整えている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870500810
法人名	はびねず福祉会
事業所名	グループホームおてだま
所在地	愛媛県新居浜市若水町1丁目9-13
自己評価作成日	平成 25 年 8 月 30 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 9 月 27 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

商店街の中にある為、毎日近隣の店を利用している。利用者の状態に合わせて、本人のできることを継続できるように支援している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

複合施設の4階フロアが、3ユニットを有する事業所となっている。ユニット玄関や室内は、日本家屋をモチーフにした造りで、落ち着いた和の雰囲気を感じる。それぞれのユニット玄関から出たところにある共有スペースは、利用者が歌を歌ったりおしゃべりしたりするなど、交流を深める憩いの場となっている。職員は、利用者の力を存分に生かすことに努めており、役割を持って生活を送れるよう支援し、排泄支援にも取り組んでいる。また、生活の支援だけでなく、利用者一人ひとりの個性を大切に趣味や精神的豊かさを支援できるよう努めている。職員は内部研修や外部研修に積極的に参加し、サービスの質の向上に努めている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームおてだま

(ユニット名) 竹とんぼ

記入者(管理者)
氏名 田坂愛子

評価完了日 25年8月30日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 「地域の中に」を理念に掲げ、ことあるごとに（カンファレンス、GH内研修など）理念を意識した話し合いを行っている。それをケアプランなどの反映して実践している。</p> <p>(外部評価) 事業所独自の理念は、職員全員で話し合い作成しており、職員間や利用者には浸透している。介護計画の作成時や新しく利用者が入居する時には、理念を振り返り、理念に沿った支援ができるように職員間の意識統一を図っている。職員は、利用者の身体状況や思いの把握に努め、生きがいや役割、外出の支援に取り組んでいる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 事業所がビルの4階にあるため、外部から入りにくいということがあるが、毎日近隣の店に買い物に行ったり、地域の商店街の催しなどに参加している。</p> <p>(外部評価) 事業所から歩いていける距離に商店街があり、カラオケ大会や路上ライブなどの商店街のイベントや産直市に出かけて、利用者は地域住民と交流をしている。新たに通いだしたスーパーでは、店員と顔なじみとなり、困ったことがあれば協力を得られるようになるなど、利用者と一緒に地域に出向いて行き、積極的に交流するよう努めている。自治会長の計らいで秋祭りには毎年太鼓台が来てくれ、利用者の楽しみになっている。また、高校生の職場体験実習や三味線、朗読のボランティアなどの受け入れをしている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 認知症について自治会で話をしたり、認知症についての講演会に参加を呼び掛けたりしている。新居浜認知症を考える会にも参加している。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	<p>(自己評価) 会議の都度意見交換、話し合いを行ない、サービ ス向上に生かしている。自己評価、外部評価について 説明し、意見を求めている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、自治会長、見守り推 進委員、市担当者、複合施設の施設長、職員等の参加 を得て開催している。地域の参加者から地域のイベン ト情報を詳しく教えてもらい、外出支援に活かしてい る。会議では食品衛生や感染症、認知症などの勉強会 を一緒に開催する工夫をして、家族や地域住民へ情報 を発信している。会議のメンバーが交代した時には、 事業所内を案内して利用者の生活の様子や雰囲気を見 てもらっている。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	<p>(自己評価) 疑問点、問題点などがあれば、市の担当者と話し合い 対応を協議している。</p> <p>(外部評価) 市職員が運営推進会議に参加しており、事業所の取り 組みを知ってもらったり情報提供を受けたりしてい る。市地域密着型サービス部会の会議にも市担当者が 参加することがあり、さまざまな場面で協力関係を築 けるように努めている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 玄関、ベランダは開放している。できるだけ外出支援 をしている。</p> <p>(外部評価) 身体拘束の勉強会を行ったり、ケアの方法を見直し記 録して職員間で話し合ったりして、再認識できるよ うに努めている。昼間はベランダに通じる窓を開放し、 居室や食堂から自由に出入りすることができる。複合 施設の4階フロアが事業所となっており、エレベ ーターにはロックを掛けているが、外出したい利用者 には希望に応じるよう努め、利用者にはユニット毎の玄 関から外に出た共有スペースを自由に使用してもら ったりして対応している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修会に参加したり、学習会をするなどして、虐待の防止に努めている。「言葉かけ」においても精神的虐待になっていないか注意している。ことあるごとに人権意識を持つように注意喚起している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在該当する利用者はいないが、学習会は行っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には十分な説明を行ない、退去時にも同様にし、関係者の理解を図っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者の言葉、態度などから意見や要望を考察し、家族にも自由に意見を求めている。それをカンファレンスなどに反映させている。	
			(外部評価) 家族からの相談や要望は、十分に聞くことができるように職員から積極的に声かけをしている。家族への大事な連絡は管理者から行うよう一本化して対応している。家族に介護計画を送付する時に手紙を添えており、利用者の良い面も不安定な面も報告して現状をよく知っていただけるように努めている。また、出された意見は話し合いを行い反映できるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 折に触れ意見提言を聞いている。なるべく反映できるようにしているが、グループホーム単独で決定できないこともあり十分とは言えない。	
			(外部評価) 毎年、職員は自己評価を実施し、ケアの在り方や運営について考える機会を設けている。職員は、些細なことでも管理者に相談することができ、意見が言いやすい雰囲気づくりをしている。管理者は、複合施設の施設長に相談し、法人に対しては施設長を通して意見を伝えることができる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 努めているように思われる。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 定期的に外部の研修や内部研修を受けている。資格取得に向けても積極的に取り組んでいる。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 相互評価への参加や地区のグループホーム研修会に参加している。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前面接時には少しでも本人の不安を取り除くようにし、本人の状態把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前面接時や面会時に、家族の心配事、希望などを十分に時間をかけて聞いている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族と話し合い状況を見極めてサービス利用の紹介、対応をしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 「ともに生活をする人」として、得意な事を教えてもらったり、生活役割を見出して、ともに楽しみ、支えあう関係づくりをこころがけている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族が疎遠な場合、できるだけかわりをお願いしたり、本人の情報を賓回に伝えたり、ともに支援していくようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの美容室や商店を利用したり、家族の訪問が出来るように支援している。 (外部評価) 利用者のこれまでの馴染みの関係が把握できた場合には、記録に残すようにして職員全員で共有している。利用者の希望に応じて、お墓参りや自宅へ出かけたり季節ごとに外泊をしたりするなど、家族の協力を得て馴染みの関係を継続できる支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係に常に注意を払い、「共に暮らす」暮らしを意識しながら支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所して以降も家族も相談にのったり、移転先の他事業所に面会に行ったりしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人にとってどうなのか？ということを中心に考えながら、会話の中、表情などから、推し量るようにしている。気づきを大切にして職員間でカンファレンス等で検討している。	
			(外部評価) 職員は日常生活の会話から利用者の思いや意向を把握するように努めている。把握が困難な利用者には表情などから汲み取るように努めている。利用者からは外出に対する要望が多く、希望に沿えるよう努めている。事業所では介護相談員を受け入れており、職員が気づかなかった利用者の思いを知ることができ、サービス向上に活かしている。誰かの役に立ちたいと願う利用者の気持ちを大切にし、役割を持って生活できるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族からの聞き取り等から把握している。生活アセスメントシートに記入していただいている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 生活記録表や日々の様子から、ひとりひとりの現状把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 家族や本人の意見を聞き、ケース会で話し合いながら、ケアプランを作成している。	
			(外部評価) カンファレンスは職員が中心となることが多いが、家族が参加する場合もある。利用者毎に担当職員がいて、担当職員が利用者や家族の要望やユニットでの話し合いをもとにして介護計画の原案を作成し、介護支援専門員と相談して介護計画を作成している。介護計画の内容は職員間で共有し、実施記録は介護計画に沿って記録するように取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別のケース記録は介護計画をもとに記録し、「気づき」に重点をおいている。カンファレンスでの検討も定期的に行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人、家族の希望により、受診介助や買い物、など柔軟に対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 盆踊りや商店街のイベントなどに参加している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 利用者が各自に主治医がおり、受診の時は職員が同行し ている。	
			(外部評価) 利用者が希望するかかりつけ医を、家族の協力を得て 定期的を受診できるよう支援している。専門医の受診 は職員も同行して状況報告を受け、利用者の状態の把 握に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 毎日の健康状態を把握し、異常があれば看護師に相談 している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院した場合は、頻回に面会に行き、常に医療関係者 や家族と早期退院にむけて調整している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 家族との協議を重ね現在までに1名の利用者の看取り を行なった。	現在、連携医療機関では夜間対応をしなくなっており、終末期の支援は支援体制を整えることができた場合に取り組める状況である。管理者は、医師の往診と訪問看護の導入の必要性を考えており、終末期に対応できる医療連携の仕組みや体制づくりの準備をすることが望まれる。
			(外部評価) 事業所として重度化や看取りに対する指針を作成して いる。管理者は利用者の状態の変化に応じて話し合 いを重ねていくことが大切だと考え、利用者や家族に相 談しながら事業所としてできることを支援していくこ とを伝えている。事業所では看取りの経験があり、医 師の往診と訪問看護、事業所の看護師、家族等の協 力、連携によって看取りを行うことができた。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救命救急の講習や緊急時の対応を訓練している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に消防署の協力で避難訓練を行っている。	
			(外部評価) 複合施設合同で、年2回消防署の立会いのもと、避難訓練を実施している。事業所は複合施設の4階にあるため、利用者の避難はベランダの避難待機場所に出て、救助を待つことにしている。災害対策用の備蓄品は、業者による点検を定期的に行っている。地域住民から、大規模災害時に複合施設を地域の避難場所にさせてほしいという要望があり、備蓄品も揃えて地域に貢献できるよう取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 職員会やケース会などで常に「言葉使い」に関しては、注意喚起している。プライバシーに関してもことあるごとに検討している。人権意識について意識するようにうながしている。	
			(外部評価) 職員一人ひとりの支援が独断にならないように気をつけており、利用者の生活することへの思いやうまくできないことが増える不安や焦りなどを理解することに努めて支援している。毎月勉強会を重ねて、職員はレポート提出をするなど、認知症ケアへの理解を深めて実践している。職員は外部研修にも勤務として参加できる体制が整えられている。	利用者の人権意識への重要性を深く捉えている職員もおり、事業所で利用者への言葉づかいや人権尊重を常に省みるよう取り組んでいることが伺える。職員全員が、言葉づかいや利用者に対する尊厳と人権意識を高められるよう、今後の職員教育の取組みに期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 個人の趣味や好みなどを聞きながら、利用者の決定を尊重していくように心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 大まかな一日の流れはあるが、一人ひとりの状況に合わせて柔軟に対応している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 朝の更衣時に好みの服を整えたり、外出時はおしゃれを楽しむよう支援している。行きつけの美容院などを利用している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の好みのもを献立にいかし、買い物と一緒に言ったり、同じ食卓に向かい合いながら、楽しく食事できる雰囲気を作っている。	
			(外部評価) 朝食と夕食は複合施設の厨房で調理したものを盛り付けて利用者に提供している。昼食は各ユニットで献立を考え、買い物や調理、食事を利用者と一緒に行っており、野菜の下ごしらえや盛り付けを職員と一緒に手伝える利用者の姿が見られた。ユニット毎にオルゴール音楽をかけたたりテレビを消したりして、利用者の状態に合わせた雰囲気づくりをして食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事の摂取量、水分摂取量などの記録をとりながら、体調を観察して、一人ひとりに応じた支援をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアを支援している。義歯を清潔に保つようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄記録表を記入しパターンを把握し、適切な誘導を行っている。	
			(外部評価) 排泄チェック表や自室トイレに置いてあるカレンダーを用いて、排泄状況を把握している。利用者が布パンツにパットで過ごすことができるように入居時から取り組み、できる限りオムツを使用しない排泄支援に努めている。利用者の身体状況に合わせて、夜間は、紙パンツやポータブルトイレを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排泄記録表を作成し、状態を把握しながら食事の内容を検討し、水分補給にも気をつけながら、身体を動かすような支援をしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) なるべく一人ひとりの希望に沿うように入浴支援をしている。	
			(外部評価) 利用者は2日に1回、午後から入浴することができる。利用者の希望に応じて、毎日入浴できる工夫をしている。また、浴槽の縁が大きく利用者は腰かけることができ、浴槽には手すりを取り付け、浴槽へのまたぎがしやすく、利用者が安全にゆったりと入浴できるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) なるべく日中の活動性をあげるようにし、穏やかな就寝にむけて支援している。表情や態度を見ながら休息を促がしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬ファイルをケースごとに整理して職員が分かりやすいようにしている。新たな薬の服薬時には、特に状態変化に気をつけている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりにあった掃除、調理、洗濯たたみや散歩、歌への参加などの支援をしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) できるだけ外出要求に応えながら、希望する場所によっては家族の支援を呼びかけたりしているが、十分とはいえないかもしれない。	
			(外部評価) 毎日散歩や買い物に出かけ、調査当日も食材の買い物に出かける利用者の姿を伺うことができた。お花見や花火大会には家族も誘って出かけている。利用者全員が出かけることができるように工夫している。利用者の外出要望が多く、美術館や図書館、併設幼稚園などに出かけたり、屋上で外気に触れ気分転換したりしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 現在お金を所持している利用者はいない。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望に沿って支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) リビング、廊下、和室など季節を取り入れしつらえを工夫している。</p> <p>(外部評価) 月2回生け花を利用者で行っており、生け花はリビングや和室、玄関などの共用空間に飾られ、季節の美しさを感じることができる。ユニット玄関から出た3ユニット共有のスペースには、卓球台やソファが置かれ、歌声や楽しむ音に誘われて各ユニットから利用者が集まる憩いの場となっている。広いベランダでは、プランター菜園や鉢植えがあり、小鳥や金魚も飼育しており、居心地の良い空間となっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 和室を利用したり、ソファを使用したりしている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 馴染みの家具や、家族の写真などを置いている。</p> <p>(外部評価) 居室はベッド、整理たんす、洗面台が備え付けられており、トイレのある居室もある。窓には障子の建具を重ねており、落ち着いた雰囲気と日よけの機能を併せ持っている。ベッドは家具調であるが、身体状況に合わせて安全や利用者の機能が使えるように考えて、手すりを付けているところもある。利用者や家族の好みを大事にして、色や持ち物を揃えている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 何が障害となっているかを見極めて、出来る力を維持するような環境を整えている。</p>	